NISSHIN oillio
"植物のチカラ®"

日清オイリオグループ CSR報告書

2013

ハイライト

「おいしさ・健康・美」を追求する
私たちの社会的責任

日清オイリオグループ株式会社

Contents

4 トップコミットメント

6 日清オイリオグループのCSR

8 特集1
毎日の食卓に“植物のチカラ®”をお届けするために、ものづくりの「現場力」を強化する。

12 特集2
トップアスリートから子どもたちまで、バランスの良い食事と運動の大切さを伝えていく。

16 CSR活動の課題・実績・評価

18 お客様のために

19 取引先とともに

20 株主・投資家の皆様とともに

21 従業員とともに

22 環境のために

24 社会のために

25 CSRトピックス

26 CSRを支える基盤

27 第三者意見

会社概要

商　　号	日清オイリオグループ株式会社
本　　社	〒104-8285 東京都中央区新川一丁目23番1号
代 表 者	代表取締役社長　今村 隆郎
創　　立	1907年（明治40年）3月7日
資 本 金	16,332百万円（2013年3月31日現在）
売 上 高	309,981百万円（2013年3月期・連結）
経常利益	4,471百万円（2013年3月期・連結）
従業員数	2,867名（2013年3月31日現在・連結）
事 業 所	本社、4生産拠点（横浜磯子、名古屋、堺、水島）、中央研究所、8支店、11営業所ほか （2013年3月31日現在）
グループ会社	国内11社、海外6社（連結子会社） （2013年3月31日現在）

編集方針

報告書の構成

当社のCSR※ 関連情報は、本報告書とホームページなどを通じて開示しています。本報告書は、「ハイライト」として当社がステークホルダーの皆様に特にお伝えしたいことや、2012年度の新たな取り組みについて報告しています。ホームページでは、その他の取り組みや関連情報を含めて、「フルレポート」として掲載しています。本報告書とあわせてご覧ください。

※ CSRとは、Corporate Social Responsibilityの略です。「企業の社会的責任」を指します。

日清オイリオグループ CSRサイト
http://www.nisshin-oillio.com/company/csr/

報告対象期間

2012年4月1日～2013年3月31日
一部に当該期間外の取り組みが含まれています。組織・役職名は2013年6月末現在のものを記載しています。

報告範囲

日清オイリオグループ株式会社と連結子会社（国内・海外）を含むグループ全体です。ただし環境パフォーマンスデータと一部の取り組みは、日清オイリオグループ株式会社単体を対象としています。（報告書中での表記について、日清オイリオグループ株式会社単体を「当社」、日清オイリオグループ株式会社と連結子会社［国内・海外］を含むグループ全体を「当社グループ」としています。）

経営理念

1. 企業価値の追求と、その最大化を通じた人々・社会・経済の発展への貢献
2. 「おいしさ・健康・美」の追求をコアコンセプトとする創造性、発展性ある事業への飽くなき探求
3. 社会の一員としての責任ある行動の徹底

コアプロミス

日清オイリオグループは、健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being) を提案・創造いたします。そのために私たちは、無限の可能性をもつ植物資源と、最高の技術によって、あなたにとって、あったらいいなと思う商品・サービスを市場に先駆けて創り続け、社会に貢献することを約束いたします。

コーポレートステートメント

NISSHIN Oillio
"植物のチカラ®"

すべては、「植物のチカラ®」から。

日清オイリオグループのコーポレートステートメントは「植物のチカラ®」。
わたしたちの事業は、植物資源の可能性を最大限に引き出し、人々の生活をさらに豊かにすることです。
植物がもつ3つのチカラ、「おいしくするチカラ」「健康にするチカラ」「美しくするチカラ」は、人や事業を動かすチカラでもあるのです。
わたしたちの行動と事業のベースは、常に「植物のチカラ®」です。

「おいしさ・健康・美」の追求を通して持続可能な社会づくりに貢献していきます。

日清オイリオグループは、食品メーカーとして、安全で安心できる商品・サービスを安定的に提供することを使命としています。食品の持つ基本的な価値をステークホルダーの皆様と共有し、持続可能な社会づくりに貢献していきます。

世界人口が増加し、穀物の供給に限界がある中、持続可能な仕組みをいかにつくりあげるか

日本では少子高齢化で人口が減少していますが、世界的には人口は増加しており、2050年には90億人を超えるといわれています。また、新興国では生活水準の向上とともに肉食が普及し、食用としてだけでなく、飼料としての穀物需要も増大しています。欧米で本格的に普及しはじめたバイオエタノールやバイオディーゼルも、穀物需要の拡大の一因となっています。

一方、環境への配慮から森林伐採や水資源の利用が制限され、作付面積の拡大には一定の制約条件となり、穀物の供給能力を大幅に高めることは難しくなっています。こうした状況下、穀物需給はタイトになり、穀物価格は高騰を続けています。

グローバル企業を目指す当社グループは、こういった構造的な人口問題、食糧問題、環境問題を認識したうえで、事業構造改革に取り組むとともに、持続可能な事業の仕組みを構築し、健全で豊かな社会づくりに貢献していきます。2011年のグローバル・コンパクトへの参加は、その意思表明でもあります。

世界一の生産量を誇る油脂であるパーム油に関しては、生産量の伸びが著しいのですが、熱帯雨林の乱開発や労働問題などが社会的な課題となっています。こうした諸

課題への解決に向けて、2012年に当社はRSPO[※1]へ加盟いたしました。グローバル企業として、パーム油産業の健全な発展に貢献していくためにも、RSPOの理念の普及に努めてまいります。

また、世界で9億人ともいわれる人々が食糧不足に苦しんでいます。この飢餓問題の解決に向けて、当社は特定非営利活動法人 国連WFP協会[※2]の評議会メンバーとして、その趣旨に賛同し、さまざまな活動に参加し、支援しています。同協会が主催するチャリティウォークイベントや当社独自の企画であるチャリティランチなどに従業員が実際に参加することで、従業員一人ひとりが社会貢献について考える機会を設けるとともに、従業員のCSR意識の醸成を図っております。

※1 RSPO Roundtable on Sustainable Palm Oil（持続可能なパーム油のための円卓会議）。熱帯林の保全や生物多様性、森林に暮らす人々の生活に配慮し、持続可能なパーム油の利用と生産を推進するために2004年に設立された。

※2 国連WFP協会
国連WFP（World Food Programme）協会は、飢餓の撲滅を使命に食糧支援を行うWFP国連世界食糧計画を支援する認定NPO法人で、日本における公式支援窓口である。

「食」の大切さ、運動と食事のバランスの大切さを伝えていく

食品メーカーとしては、安全で安心できる商品・サービスを安定的に提供し続けることが使命であり、持続可能な社会づくりに貢献できるものと考えております。そのうえで、「食」の大切さや楽しさをもっと伝えていきます。最近、日本人の「食」がいろいろな意味で乱れていると感じています。健康のためにと、油の摂り過ぎを気にする人が多いのですが、控え過ぎるのも問題があります。健康のためには、栄養バランスが良く、規則正しい食生活を送ることが大事です。植物油は体内では作れない「必須脂肪酸」の供給源ですし、植物油を上手に使うことで、野菜のビタミンなどを効率良く吸収できます。何よりも油を使うと料理がおいしくなります。食品にとっての基本的な価値である「おいしさ」と「健康」を、植物油によってご提供し続けていくことが当社としての責務でもあります。当社が100年以上にわたる長い歴史の中で培ってきた技術力で、お客様が求める新たな価値を創り出すことはもちろんですが、植物油が持つ本来の価値を日々の営業活動をはじめとして、ホームページや食育活動などを通じて、わかりやすく伝えていくことで、皆様の生活をさらに豊かなものにしていきたいと考えております。

健康的で美しい生活という観点で、当社は以前から運動と食事のバランスの大切さも伝え続けています。その一環として、スポーツ振興事業への取り組みにも力を入れています。オリンピック日本代表の食事・栄養サポートや少年サッカー大会などの各種スポーツ大会への協賛などもその活動のひとつです。昨年夏のロンドンオリンピックにおいて、当社がサポートしている卓球の福原愛選手、レスリングの吉田沙保里選手がメダルを獲得したことは、当社にとっても大きな喜びであり、アスリートにとって大切な「食」という点で当社なりの貢献ができたものと考えております。これからもトップアスリートへの食事・栄養サポートを通じて、アスリートから未来のアスリートを目指す子どもたち、そしてすべての人々に運動と食事のバランスの重要性を伝えていきたいと考えております。

日清オイリオグループ株式会社
代表取締役社長

今村隆郎

日清オイリオグループのCSR

経営理念の実現を通じてステークホルダーの皆様の期待と信頼にお応えすることが、私たちにとってのCSRです。

CSRの取り組みの基本方針

意義・目的

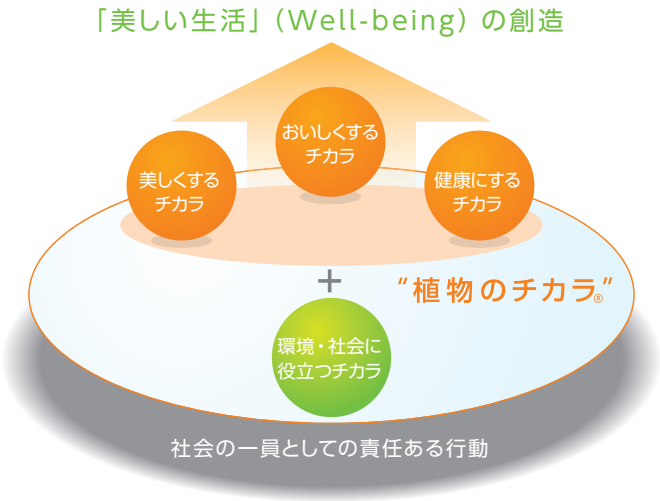
- CSRとは、あらゆるステークホルダーとの関わりを重視し、「法的な責任を果たすこと」はもちろん、安全で安心できる商品・サービスの安定的な提供、環境問題への取り組み、社会貢献、情報開示など、「あらゆるステークホルダーからの期待に応えること」です。
- 日清オイリオグループにとって、経営理念の実現そのものが、CSRに対する取り組みに直結するものです。
- 日清オイリオグループは、CSRに対する主体的な取り組みによって、あらゆるステークホルダーからの信頼・共感の維持・向上を図り、企業の持続的発展、企業価値の向上を目指します。

日清オイリオグループのCSRイメージ

当社グループは、1907年の創立以来、植物が持つ3つのチカラ、「おいしくするチカラ」「健康にするチカラ」「美しくするチカラ」を最高の技術によって引き出し、世の中にお届けしてきました。

「おいしさ」「健康」「美」。これらの喜びを、健康的で幸福な「美しい生活」(Well-being)として、提案・創造していきます。そして、社会や環境の分野においても、“植物のチカラ®”を活用し、世の中に貢献します。

■ ブランドコンセプトに基づくCSRの概念図



ステークホルダーに対する取り組み

当社グループは、2005年にCSRに対する取り組みの基本方針を定めた際に、主たるステークホルダーをお客様、取引先、株主・投資家、従業員、社会、環境とし、ステークホルダーごとにCSRの方針を策定し、取り組んでいます。

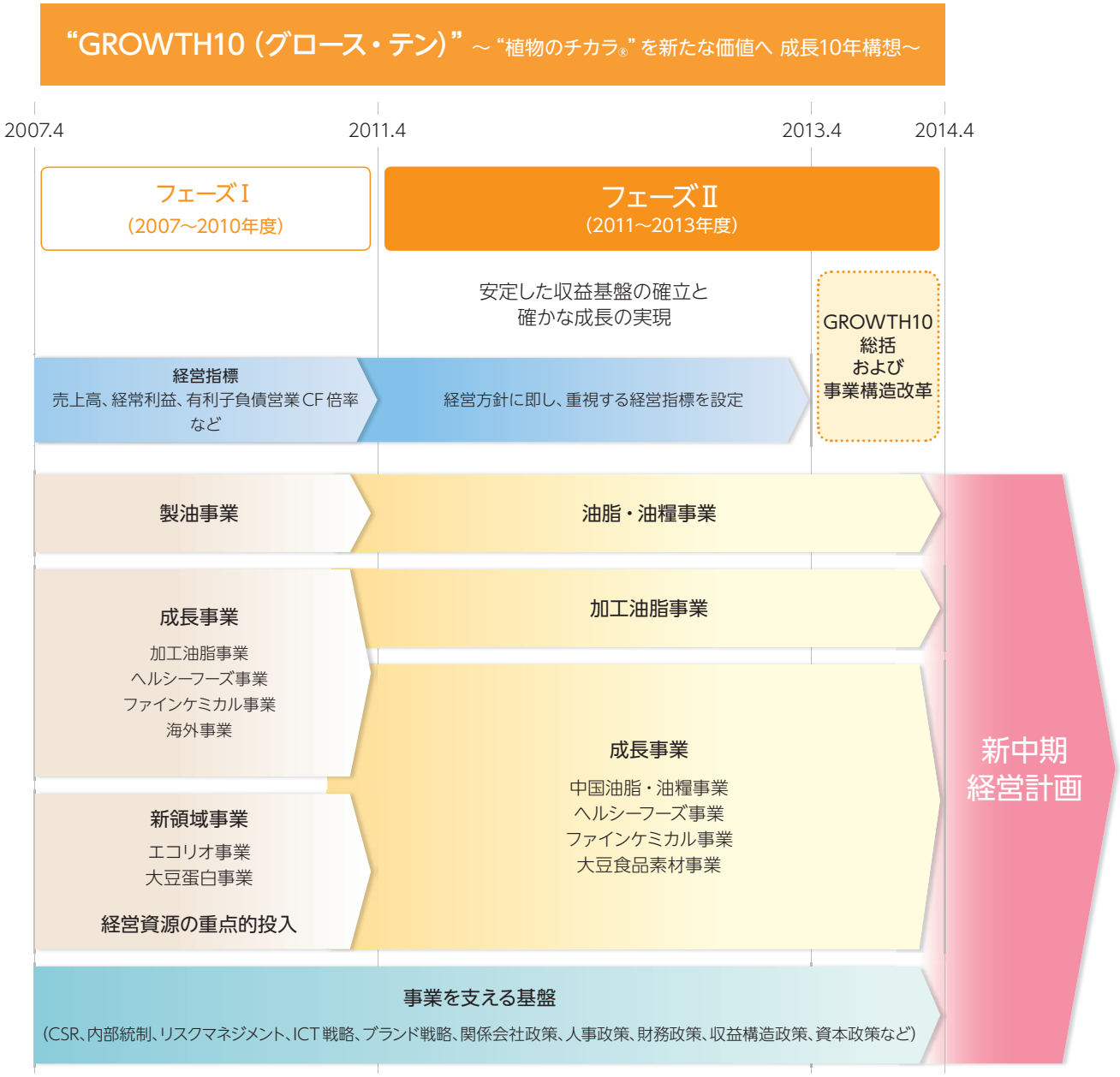
“GROWTH10”と新中期経営計画

“GROWTH10”は2007年度にスタートした10ヵ年経営基本構想であり、“植物のチカラ®”で新たな価値を創造し続ける国際的な企業グループとなるための指針です。

2011年度からスタートした“GROWTH10 フェーズⅡ”は、2013年度が最終年度となっており、成長戦略と構造改革戦略の両輪で、事業構造改革を完遂し、いかなる収益環境においても、安定的に収益を獲得できる構造を目指しています。

“GROWTH10”につきましては、開始時に描いた環境が大きく変化したことにより、フェーズⅡで終了し、新中期経営計画を2014年度からスタートさせます。新中期経営計画では、“GROWTH10”を総括し、未来予測を加えて、当社グループの目指すべき姿と、新たな成長戦略と構造改革戦略を示します。

“GROWTH10”と新中期経営計画



食品メーカーの使命、それは、安全で安心な商品・サービスを、安定的に提供することです。食品の品質に対する要求は、日々高まっています。当社は、食用油の原料となる大豆や菜種はもちろん、容器の材料となる資源や、生産のためのエネルギーを無駄なく使い、お客様や社会のニーズに応える食用油を安定してお届けするために、工場の「現場力」を強化しています。

特集 1

毎日の食卓に“植物のチカラ®”をお届けするために、ものづくりの「現場力」を強化する。

若手からベテラン技術者まで、粘り強い取り組みが、ものづくりを支える。現場力を高める「人材」を育成。

当社グループの工場は、今年で操業50周年を迎える横浜磯子事業場をはじめ、長い期間稼動している設備があります。「目をつぶると設備の配管をすべて思い浮かべることができる」というベテラン従業員は、「今年定年なので、設備の故障や修理に関する記録を残しておこうと思う」と語っています。長い歴史の中でコツコツと課題に取り組む姿勢や粘り強さ、日々改善する風土が育まれ、それは、人から人への技術・技能伝承や、安全に対する意識の継承につながっています。一方、生産現場の自動化が進んだことや、商品の品質に対する要求が高まったことで、会社として組織的な現場力の向上に取り組むことが求められています。当社は、メーカーにとって製造は生命線であるという認識のもと、直面する課題に対応するために、「QCスクール」や「安全塾」を実施するとともに、「人材のマルチ化」を推進しています。

統計的品質管理で、ものづくりを改善「QC（Quality Control）スクール」

QCという統計的手法に基づいた品質管理を学ぶことで、物事を数理的に考える、誤った判断を少なくする、また効率的かつ効果的に業務を推進することが可能になります。

「QCスクールの取り組みも技術・技能の伝承の一部なのです。技術者として、カンだけに頼ることなく、統計的裏づけをもって判断することが重要です」（生産・物流統括部 QCスクール講師 片山 拡）。

QCスクールでは、オリジナルのテキストを使って、実際の業務に即した品質管理手法を学びます。2010年のスタート以来、これまでに60名の若手技術者が受講し、それぞれの現場の改善に役立てています。

片山 拡
生産・物流統括部　QCスクール講師

“安全なくして生産なし”を体感する「安全塾」

横浜磯子事業場の一角には、現場で起こりうる事故を疑似体験できる安全塾が設けられています。設備の安全対策が進み、危険な体験をする機会は減少していますが、それとともに安全に対する意識が低下することは避けなくてはなりません。安全塾には、挟まれ・巻き込まれ、切れ・こすれなど、実際に現場での発生を想定した18のプログラムが用意されており、実体験をもって安全の重要さを語ることのできるベテラン従業員が講師を務めています。横浜磯子事業場の従業員はもちろん、他の事業場、グループ会社の従業員も受講し、安全に対する意識向上を図っています。

工場内に手づくりの体験設備を設け、現場で起こりうる事故を疑似体験する安全塾。写真は原材料の投入や添加処理に使用するロータリーバルブ装置での指挟みを、竹棒を使い疑似体験している様子。

個人のスキルを高め、全体の現場力を高める「人材のマルチ化」

設備の自動化とともに、従来よりも少人数で製造ラインを管理することが可能になりました。当社は、ひとりの技術者が複数のラインを担当できるように、国内生産4拠点間の異動や、専門分野が異なるラインへの担当替えを推進しています。「生産設備全体の仕組みを知り、常にメンテナンスや検査部門とのコミュニケーションをとることで、トラブルが起きたときの改善も容易になります」（生産・物流統括部 岡田昌俊）。多くの技術者が複数の工場やラインを体験することで、工場間でベスト・プラクティス（優良事例）を共有したり、全体最適を考えた工程の改善が行えるようになることを目指しています。

岡田 昌俊
生産・物流統括部

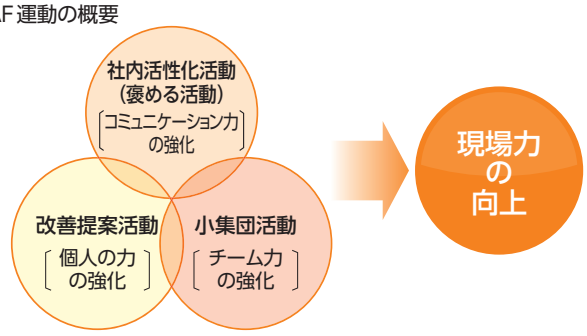
強い組織は、最後はチーム力がものをいう。全員参加で現場力を高める「AF運動」を展開。

現場力は、ものづくりの土台です。理想的な製造現場には従業員が誇りと自信をもって仕事をし、それが安全や品質、生産技術力の向上につながっていくという組織風土があると当社では考えています。また、「この人のようになりたい」という現場のリーダーが身近にいることが、職場全体のモチベーションアップや環境変化へ対応するための新たなチャレンジを生み、それが機動性・柔軟性のある強い組織につながっていきます。ものづくりの土台を強固なものにし、理想的な製造現場を実現するために、当社生産部門では、2011年から「AF（Again-Future／原点回帰＆未来志向）運動」を展開しています。AF運動は、チームワークの強化に向けて従来から実施していた「小集団活動」に加え、業務改善に向けた個人レベルの思考能力の向上を図る「改善提案活動」、日常の地道な努力などに目を向け、感謝や賞賛の気持ちを伝えることでコミュニケーション力を高める「社内活性化活動（褒める活動）」が3本柱となっています。

「全員参加で、楽しみながらAF運動を推進することで、しっかりと地に足の着いた現場力をつくりあげ、最終的には4つの生産拠点がひとつの工場のように連携していけるよう取り組みを進めていきます」（常務執行役員 生産・物流統括部長 栢之間 昌治）。

栢之間 昌治
常務執行役員
生産・物流統括部長

AF運動の概要



水島工場における社内活性化活動（褒める活動）の例

見えないファインプレーの発見が、意識向上につながる

社内活性化活動（褒める活動）は、ともに働く仲間を観察し、言葉にして評価する活動です。褒められた本人のやる気につながるとともに、他人の頑張りが「見える化」されることで、競争心や意識が向上するだけでなく、他人を認める心や一緒に頑張ろうという気持ちも育ちます。他部署や協力会社との横のつながりも広がり、その仲間のひとことが、仕事のミスを防止することもあります。

AF運動を通じた職場の活性化に向けて、頑張って取り組んでいる人がたくさんいて、ほかの人を引っ張っています。

福永 優美子
水島工場　総務グループ
（AF運動拠点事務局）

横浜磯子事業場における小集団活動の例

汚れへの対処法を見直し、常にきれいな状態を実現する

精製工場では、熱気などさまざまな要因からフロアが汚れてしまいます。従来は、清掃によって汚れへの対処を行っていましたが、現在では汚れに対して「原因調査→改善検討→改善実施→評価」を実施しています。たとえば、床の腐食の原因が、ポンプ上部のバルブパッキンの経年劣化による微量な漏れであることをつきとめ、設備の液漏れを改善し、さらに床のエポキシ補修を行った事例もあります。今後も、さらに活動を続け、今までの精製工程からは想像もできないような「きれいな生産現場づくり」を目指します。

名古屋工場における改善提案活動の例

お客様の安全のために、いちはやく設備を改善

名古屋工場には「何でもやろう」という風土があり、現場には改善活動が根づいています。その一例として、生産工程で使用する油圧式モーターの作動油を、従来の非食用油から、植物由来の食用油脂に変更したことがあげられます。単なる油の変更にとどまらず、生産設備の改善にも及びましたが、より安全な植物由来の食用油脂を使用したいという思いで改善を成し遂げました。

成功までに2年の歳月がかかりました。何度トラブルがあってもあきらめずに原因を追求し、改良を重ね、得られた技術で現場力を高めます。

住吉 康男
名古屋工場　物流・サイログループ 主管

現場力を高めるその他の活動

活動を通じてコミュニケーションを深め、活力ある組織をつくる

e-Factory 堺

堺事業場では、AF運動と連携して、活力のある(energetic)、環境にやさしい(ecological)、効率的な(economical)職場づくりに向けて、“e-Factory 堺”の活動を推進しています。従来は部署ごとに行っていた安全衛生防災やボランティア、工場見学、省エネなどの活動を部署横断的に行うことで、従業員同士のコミュニケーションを深めています。

活動を通して他の部署の人と知り合うことで気軽に質問できるようになり、結果として工程改善や業務の効率化につながっています。

大泉 真理子
堺事業場
摂津製油（株）堺事業所油脂工場
品質・技術グループ品質管理チーム

人の力、チームの力、それが革新的なものづくりを可能にする。

瀬戸 明
取締役 専務執行役員
※2013年6月25日まで
生産・生産技術を担当

健康オイル「ヘルシーリセッタ」は、そのままでは調理に適さない中鎖脂肪酸油を、エステル交換というシンプルな技術で食用油に取り入れたことがポイントです。シンプルに作ることの大切さは、製造の現場にも当てはまります。おいしく安全なものを、材料やエネルギーなどの無駄なく作る。そのために欠かせないのが「現場力」です。近年は機械化が進んできましたが、やはりものづくりを行っているのは人ですから、技術の継承や人材の育成が大切になってきます。そもそも食用油は、天然の植物で作られますから、一人ひとりの技術者の力と、工場というチームの力を結集した現場力があってこそ、安全で無駄なく均一な品質を作り込み、お客様にお届けすることができるのです。

当社は、“植物のチカラ®”を最大限に引き出し、「おいしさ・健康・美」を追求してきました。2003年には、健康オイル「ヘルシーリセッタ※」を発売。オリンピック選手の食事・栄養サポートや、全日本少年サッカー大会に参加する選手や保護者の皆様への食事提案などを通じて、バランスの良い食事と運動の大切さを伝えています。

※天然の植物成分「中鎖脂肪酸」の働きで、体に脂肪がつきにくい健康オイル。
特定保健用食品です。

特集 2

トップアスリートから子どもたちまで、バランスの良い食事と運動の大切さを伝えていく。

「おいしさ・健康・美」の追求をコアコンセプトに、“植物のチカラ®”の可能性を新たな価値として社会と共有する。

当社は、JOC（日本オリンピック委員会）オフィシャルパートナーになる以前から、食事と運動の関係に着目してきました。食事は栄養とおいしさのバランスが大切であり、身体に大きく影響します。中でも食用油は身体にとって大切なエネルギー源であり、料理をおいしくする働きを持っています。当社は、「おいしさ・健康・美」の追求をコアコンセプトとする創造性・発展性ある事業を展開し、人々・社会・経済の発展に貢献することを経営理念としています。その一環として、スポーツ振興事業に取り組み、オリンピック日本代表選手や未来のアスリートなどを

当社管理栄養士による福原愛選手への食事・栄養サポートの様子。個々の選手の状況に合わせ、より詳細なアドバイスを行っている。

日清オイリオグループ　主なスポーツ振興事業活動の歴史

1978年
「日清サラダ油サマースクール」実施

元水泳日本代表 木原光知子さんを団長として、第1回目はサイパンを舞台に実施。以後1980年まで継続。

第1回 日清サラダ油サマースクール告知チラシ（1978年）

1980年
「日清サラダ油木原光知子のスイミングスクール」実施

毎年夏休みに親子50組を抽選で招待し、国内（毎年3地区・1泊2日）での開催。以後1993年まで開催。

1993年のスイミングスクール開校式の様子

1982年
「神奈川マラソン」後援

1979年から開催されている「神奈川マラソン」を第4回大会から後援。横浜磯子事業場は、この大会のスタート地点、ゴール地点となっている。現在も継続中。

横浜磯子事業場が大会のスタート地点、ゴール地点となる「神奈川マラソン」

1997年
「ウーマンズ・スイム・フェスティバル」協賛

泳ぐことが大好きな女性スイマーが参加する水泳大会「ウーマンズ・スイム・フェスティバル」に、第1回大会から協賛。現在も継続中。

2005年
「JOCオフィシャルパートナーシッププログラム」契約締結

フリースタイルスキー・モーグルの上村愛子選手とスポンサーシップ契約締結

食事・栄養サポート開始。

2006年
全日本少年サッカー大会協賛（U12）

「横浜F・マリノス親子サッカー教室」主催

いずれも現在も継続中。

2007年
卓球の福原愛選手とのスポンサーシップ契約締結

食事・栄養サポート開始。

「食」の面からサポートを行うことで、健康的で幸福な「美しい生活」（Well-being）を提案しています。そのために、当社は今後も、長年培ってきた食用油脂をはじめとする「食」に関する技術の発展に努め、“植物のチカラ®”の可能性を社会と共有する新たな価値として提案していきます。

左より、卓球の福原愛選手、レスリングの吉田沙保里選手、
フリースタイルスキー・モーグルの上村愛子選手、伊藤みき選手

JOCオフィシャルパートナーとして、オリンピック選手を食事・栄養サポート。

当社は2005年、スポーツ振興事業の一環として、スポーツの原点であるオリンピックのサポートを開始しました。現在は年間を通じて、卓球の福原愛選手、レスリングの吉田沙保里選手、フリースタイルスキー・モーグルの上村愛子選手・伊藤みき選手の食事・栄養サポートを行っています。トップアスリートは、子どもの頃からの指導で食事の大切さを理解していますが、日々の食事内容は、競技種目、シーズン、体格、トレーニング目標などによって個人差があり、それぞれに合わせて、カスタマイズすることが重要となります。そのため、当社の管理栄養士がそれぞれの選手と話し合い、目標を共有し、献立イメージなどを作成しています。日々のやりとりはメールで行い、適宜食事の内容を確認し、選手の状況に合わせて指導を行うという手順でサポートを行っています。アスリートたちは、「疲労回復が早くなった」「今年は風邪を引かなかった」「競技の結果につながったようだ」というような気づきをきっかけに、食事の大切さについてさらに認識を深めていきます。また、海外遠征時は自炊ができず、ホテルの食事など外食が続くことも多く、国によって食環境が異なるので、それぞれの状況に対応するためのアドバイスも行っています。

トップアスリートの食事・栄養サポートのメニュー提案では、当社の「ヘルシーリセッタ」をはじめとした食用油が、レシピの中で使用されている。
写真は、ヘルシーリセッタ 600g。

福原愛選手への「食事・栄養サポートレシピ」。種目やシーズンによって選手へ提供されるレシピが変わるので、これらを参考に、各選手が自身の食事管理を行っていく。

福原愛選手の手作り料理を見て、サポート活動の成果を感じました。

アスリートは、競技で結果を出すことが求められます。必死に練習に取り組む一方で、食事は楽しみでもあるので、ストレスにならないように気をつけてアドバイスしています。サポートを続ける中で、「アドバイス通りにすると、調子がいい」ということの積み重ねが、信頼関係につながります。先日、福原選手から、手作りの夕食の写真が送られてきました。「バランスのことは、意識せずに作った」と言っていましたが、楽しみながら、自然にバランスの良い食事を作ることができていたことが、サポート活動の成果として嬉しく思いました。

清原 知子
コーポレートコミュニケーション部
宣伝・広告グループ 主管

全日本少年サッカー大会では保護者や指導者向けに栄養講座も開催。

食と健康についてゲームをしながら楽しく学ぶことができるコーナーも設置（右上・右下）。決勝大会期間中は少年たちの身体づくりに合わせた献立の提供も行われる（下）。

少年サッカーのサポートを通じて、子どもの頃からの食事習慣の大切さをアピール。

当社は、2006年に全日本少年サッカー大会（U12）決勝大会への協賛を開始しました。これは、未来のトップアスリートを夢見ている少年たちにとって、あこがれの大会です。決勝大会会場では、強い身体と心をつくるための食生活のポイントやおすすめレシピを紹介した『親子で楽しむ！食生活サポートBook』を配布し、また管理栄養士による講演会を行い、保護者や指導者の皆様にバランスの良い食事習慣の大切さをアピールしています。健康と食用油の関係や、中鎖脂肪酸の特長を説明するためのブースでは、お子さま向けのゲームも開催し、楽しく学んでいただいています。

『親子で楽しむ！
食生活サポートBook』

また、元日本代表選手をスペシャルコーチに迎え、全国各地でジュニアサッカースクールも開催しています。スポーツをする楽しさや、強い身体と心をつくるために大切な食生活を、親子で体験できるプログラムです。

取引先と共同で主催する「ジュニアサッカースクール」。写真上は大分市で開催された様子。スペシャルコーチは、サッカー元日本代表の福西崇史氏。写真下はさいたま市で開催された「ジュニアサッカースクール」での練習風景。いずれも2012年11月開催。

スポーツ振興事業を通して、多くの方々に健康的な食生活を提案していきたい。

中澤 祐喜
コーポレート
コミュニケーション部長

食事やスポーツの持つ意味は、それぞれの人によって異なります。トップアスリートにとって、食事はスポーツのスキルを上げるためのトレーニングを支える大切な要素です。子どもたちにとっては、成長期のステージに合わせた食事が大切になります。そして、一般の方にとって食事やスポーツは、楽しく健康な生活を送ることにつながります。

健康はバランスの良い食事と適度な運動が基本です。当社は、おいしさや栄養に関わる食用油を提供するとともに、スポーツ振興事業をはじめ、親子向けの料理教室や食育イベントの開催、ホームページでの情報発信などを通じて、健康で楽しい食生活を広めていきたいと考えています。

CSR活動の課題・実績・評価

私たちは2005年にCSRに対する取り組みの基本方針を定めた際に、主たるステークホルダーをお客様、取引先、株主・投資家、従業員、社会、環境とし、ステークホルダーごとにCSRの方針を策定し、取り組んでいます。
以下に、各ステークホルダーに対する取り組み方針とともに、2012年度の取り組み課題、実績、および評価について報告します。

※【自己評価基準】◎：目標が達成できた　○：ほぼ達成（未達分の目途がついている）　△：課題を残した

お客様

方針

「おいしさ・健康・美」を追求した、安全・安心でお客様にとって価値ある商品・サービスを安定的にご提供し続けます。お客様の声を絶えずお聞きして、“植物のチカラ®”を、独創的な技術で商品・サービスに活かしていくとともに、お役に立つさまざまな関連情報を常に発信していきます。

2012年度CSR取り組み課題	2012年度CSR課題、方針に則った取り組みの主な実績	自己評価※
・品質マネジメントシステムの有効性の強化	・ISO9001品質マネジメントシステムの実施状況に関する内部監査、外部監査の実施 ・ISO9001内部品質監査員スキルアップセミナーの開催 ・国内外のグループ企業との品質保証に関する情報共有、レベルアップに向けた取り組み（大連日清製油からの研修生受け入れ） ・ISO関連データベースの再構築 ・お客様の声を活かした商品改善の実施（P.18）	◎

取引先（販売先・調達先）

方針

フェアネス（公平・公正）に基づいた相互信頼のパートナーとしての関係を築き、共同で商品や市場を開発し、ともに成長していきます。

2012年度CSR取り組み課題	2012年度CSR課題、方針に則った取り組みの主な実績	自己評価※
・サプライヤーおよび取引先との共同による、顧客・消費者の立場に立った新技術開発および商品の開発	・取引先とのギフト化粧箱開発（P.19） ・油脂サプライヤーとしてRSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）への加盟（P.19） ・政策説明会による取引先とのコミュニケーション ・取引先とのPB商品の開発・上市	◎

株主・投資家

方針

健全な成長と安定した企業業績のもとで、株主様との双方向コミュニケーションの推進による良好な関係を築きながら、株主価値の向上、適切な利益還元に努めます。また、広く投資家の皆様に向けて、適切な情報開示を行います。

2012年度CSR取り組み課題	2012年度CSR課題、方針に則った取り組みの主な実績	自己評価※
・株主・国内外投資家の皆様への情報発信とコミュニケーションの強化	・株主様工場見学会の継続実施による株主様とのコミュニケーション強化（P.20） ・個人投資家、機関投資家に対するIRセミナーなどの情報発信の継続実施（P.20） ・正確で信頼性の高いIR情報のホームページ上におけるタイムリーな開示（P.20） ・年2回、機関投資家・アナリストやマスコミの皆様を対象にした決算説明会の開催 ・外国語（英語、中国語）ウェブサイトのリニューアル実施	◎

従業員

方針

時代に合った働きやすい環境を整え、持続的に従業員が自己の成長を感じられる働きがいのある、いきいきとした安全で衛生的な職場を実現します。

2012年度CSR取り組み課題	2012年度CSR課題、方針に則った取り組みの主な実績	自己評価※
・「人材・組織競争力の最大化」および「安心かつ働きがいのある職場づくりと業務改革による生産性向上」の推進	・ワークライフバランスの推進に向けた次世代育成行動計画（2011年度～2014年度）の実施 (P.21) ・従業員の能力開発に資する各種教育プログラムの実施［海外視察研修の実施 (P.21)、オイリオ塾の開催］ ・生産性の向上、総実労働時間の短縮を目的とした全社的な業務改革運動の推進	◎

社会

方針

良き企業市民として地域社会に貢献するとともに、国際社会の一員としても良好な企業活動や積極的なコミュニケーションを図り、社会とともに発展していくよう努めます。

2012年度CSR取り組み課題	2012年度CSR課題、方針に則った取り組みの主な実績	自己評価※
・国連グローバル・コンパクト参加企業としてのグローバルCSRの社内プログラムの企画 ・食に携わる企業としての社会貢献活動の実施、社内ボランティアの活動支援	・国連グローバル・コンパクト説明冊子の作成・配布 (P.25) ・国連WFP協会主催のチャリティウォーク「ウォーク・ザ・ワールド」の大阪府堺市での自主開催 (P.24) ・地域イベント、食育イベント、工場見学会の開催 (P.24) ・食生活を中心とした社会全般の調査・考察についてのショートレポートの発行	◎

環境

方針

常に未来に向けた技術で、“植物のチカラ®”を引き出し、原料・資材の調達から、生産、納品、ご使用、廃棄にいたるまで、地球環境に配慮した商品・サービスの開発・ご提供を目指します。またこれらを通じて、低炭素社会、資源循環型社会、自然共生社会の構築を目指した取り組みの推進に努めます。

2012年度CSR取り組み課題	2012年度CSR課題、方針に則った取り組みの主な実績	自己評価※
・2013年度以降の新中期目標の策定 ・当面の電力不足やエネルギー関連の新たな施策に向けた対応	・2013年度以降の新中期目標の設定 (P.23) ・生産拠点における節電対応の実施 (P.22) ・省エネ機器の導入 (P.22) ・環境啓発活動の一環としての省エネ講演会の実施 ・CO_2総排出量159,801t-CO_2（基準年度比8%削減を21.1%削減で目標達成)(P.23) ・CO_2排出量原単位　0.264 t-CO_2/t（基準年度比16%削減を18.4%削減で目標達成)(P.23) ・廃棄物再資源化率99.87%で目標達成継続 (P.23)	◎

CSRを支える基盤

2012年度CSR取り組み課題	2012年度CSR課題、方針に則った取り組みの主な実績	自己評価※
・グループ全体での内部統制システム、リスク管理、コンプライアンス体制のレベルアップ（コンプライアンス体制の再点検、内部統制システムの継続的運用など） ・リスクアセスメントの強化（本質安全化の推進）と実効性ある安全義務教育活動の充実	・コンプライアンス・プログラムの実施（新入社員研修、下請法セミナー） (P.26) ・行動規範の理解を目的としたウェブ・ラーニングの実施 ・ソーシャルメディア利用に関する行動指針の策定	◎

お客様のために

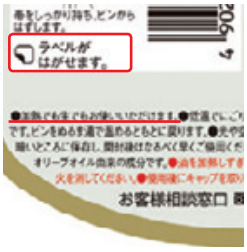
ラベルがはがしやすくなった
「ボスコエキストラバージンオリーブオイル（500ml）」

方針

「おいしさ・健康・美」を追求した、安全・安心でお客様にとって価値ある商品・サービスを安定的にご提供し続けます。お客様の声を絶えずお聞きして、“植物のチカラ®”を、独創的な技術で商品・サービスに活かしていくとともに、お役に立つさまざまな関連情報を常に発信していきます。

お客様の声を活かした改善事例
〔使用方法をわかりやすく、はがしやすいラベルへ〕

「ボスコエキストラバージンオリーブオイル（250ml、500ml）」について、「使用後の容器分別の際に商品ラベルがはがしにくい」、「生でも使用できるなら、そのことを表示してほしい」とのご要望をいただきました。これらを受け、商品ラベルを紙からフィルム（PP：ポリプロピレン樹脂）に変更してはがしやすくしました（写真上）。また、注意書きに「加熱でも生でもお使いいただけます。」と表示をすることにより、使用方法をわかりやすくしました。



注意書き（改善後）

「中長鎖脂肪酸食用油」が、中国で「新資源食品」として許可されました

日清奥利友（中国）投資有限公司が申請した「中長鎖脂肪酸食用油」の「新資源食品」※の登録が2012年8月28日に中国衛生部から許可を受けました。

いままで「中長鎖脂肪酸食用油」は「保健食品」（日本の特定保健用食品に相当）のみに使用できましたが、今回の許可により一般の食用植物油と同様、食品または食品原料として使用可能となりました。また、許可において、当社独自の、酵素を用いたエステル交換技術および分析方法が認められました。

今後、「中長鎖脂肪酸食用油」が持つ機能（体脂肪として蓄積されない、腎臓病の食事療法や術後のエネルギー補給）を活用した商品の開発に期待ができます。

※「新資源食品」　新しい資源や原材料によって作られる食品で、中国の新資源食品審査評議会を経て衛生部が許可した食品。

啓発冊子『植物油のおいしいおはなし』のリニューアル

お客様相談窓口では、お客様向けの啓発冊子として『植物油のおいしいおはなし』を発行しています。植物油の健康や美容への効果、調理方法、保管方法、製造方法、豆知識等をまとめたもので、お客様、消費生活センター、お料理教室などに配布して好評を得ています。

2012年4月にお客様の疑問にお応えすべく、油の選び方から後片付けまで、お問い合わせの多い内容を盛り込んでリニューアルしました。

『植物油のおいしいおはなし』

WEB 詳しい情報はフルレポートへ（P.37～53）

Stakeholder 2

取引先とともに

新「フードプラザ」

方針

フェアネス（公平・公正）に基づいた相互信頼のパートナーとしての関係を築き、共同で商品や市場を開発し、ともに成長していきます。

新「フードプラザ」の開設

2013年2月28日に竣工した当社本社ビルに隣接する日清アネックスビルに、新「フードプラザ」を開設しました。フードプラザは、取引先へのプレゼンテーション、試食をともなう社内会議、メニュー開発のための試作、営業サンプルの作成などを目的とした施設で、最新の厨房設備とプレゼンスペースを備えています。

これまで本社ビルにあった旧「フードプラザ」は、設置機器やスペースが限られていましたが、今回開設した新フードプラザはスーパーなどの店舗バックヤードと同じ厨房設備を備え、実際の調理と状況を想定したプレゼンテーションが可能となりました。また、広いオープンキッチンとしたことで、調理風景を見せながらゆったりとしたスペースでメニュー提案などができるようになりました。

油脂サプライヤーとしてRSPOへの加盟

当社は国際的な環境問題や社会的課題の解決の動きに協調し、パーム油産業の健全な発展に貢献していくため、RSPO（Roundtable on Sustainable Palm Oil：持続可能なパーム油のための円卓会議）に加盟しました。

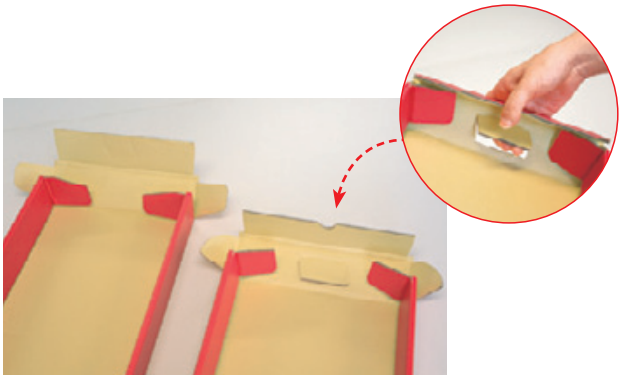
今後ともパーム油生産に関する環境・社会的課題を深く理解・認識し、RSPOの理念の普及に努めていきます。

資材メーカーとのギフトセット化粧箱の共同開発

レンゴー株式会社様との共同開発により、当社ギフトセットで使用している化粧箱（身箱、蓋）の廃棄を簡単に行えるようになりました。共同開発した化粧箱は、従来手間のかかっていた解体がワンタッチで簡便に行え、廃棄も容易です。パッケージの付加価値の向上だけでなく、リサイクルの促進にも寄与しています。

2012年度はギフトの一部に採用しましたが、2013年度は全面的に採用する予定です。

※この開発商品はレンゴー株式会社様が特許（特許第3894739号、特許第4152470号）を取得しています。



左：改善前、右：改善後（指をかけて簡単に解体可能）

WEB 詳しい情報はフルレポートへ（P.54～55）

Stakeholder 3

株主・投資家の皆様とともに

第6回株主様工場見学会
（横浜磯子事業場）

方針

健全な成長と安定した企業業績のもとで、株主様との双方向コミュニケーションの推進による良好な関係を築きながら、株主価値の向上、適切な利益還元に努めます。また、広く投資家の皆様に向けて、適切な情報開示を行います。

株主様工場見学会

2012年9月25日、横浜磯子事業場にて第6回株主様工場見学会を開催し、抽選により株主様と同伴者の方あわせて約100名にご参加いただきました。

参加者には事業場内の圧抽工場や充填ラインなどを見学していただき、食用油が精製されていく工程の実験や説明などを行いました。見学後は、講堂にて懇親会を開催し、当社グループの商品を使用した料理やデザートをご試食いただいたほか、事業や商品について担当従業員がパネルなどを用いてご紹介しました。懇親会には、今村社長をはじめとする役員も出席し、参加者と直接意見を交換することができ、良い交流の場となりました。

個人投資家の皆様とのコミュニケーション

全国の証券会社支店にて会社説明会を開催しています。2012年度は15会場で開催し、約900名の個人投資家の皆様に当社の事業内容、経営戦略などについてご説明しました。

会社説明会

IR情報の開示

正確で信頼性の高いIR情報をホームページ上でタイムリーに提供しています。株主通信やアニュアルレポート等を通じて、わかりやすい情報開示に努めています。

IR情報：http://www.nisshin-oillio.com/inv/index.shtml

アニュアルレポート（英文）：
http://www.nisshin-oillio.com/english/financial/index.shtml

『アニュアルレポート2012（英文）』

『株主通信』

WEB 詳しい情報はフルレポートへ（P.56～58）

従業員とともに

2013年1月に実施したマレーシア・シンガポール研修

方針 時代に合った働きやすい環境を整え、持続的に従業員が自己の成長を感じられる働きがいのある、いきいきとした安全で衛生的な職場を実現します。

ワークライフバランスの推進と次世代育成の支援

少子化が進行する中で、当社は「次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、成長する環境づくり（次世代育成支援）」を重要なテーマと位置づけ、男性従業員の育児休職の取得や育児・介護制度利用の促進、ワークライフバランス施策の実施など、積極的な取り組みを進めています。

育児休職を取得して

生産・物流統括部　川邉 秀人

2歳の長女に続いて4月に誕生した次女の育児を分担し、家族の負担を軽減することを目的に育児休職を取得しました。長女の育児経験があるものの、2人同時進行となると休み無しの多重サイクルで、赤ちゃんが寝ている間に仮眠をとる事さえ難しいなど、連日取り組んでみるとなかなか大変なものでした。

一方で家族一丸となって子育てに取り組むことができた日々は、その後の父親育児への励みともなりました。今回の休職は職場の仲間たちをはじめ社内外の方々の好意的なサポートをいただけたことで実現しました。家族一同感謝するとともに、育児休職への社会的意識の高さも実感しました。

育児休職中の様子

グローバル人材の育成

国際的な企業グループとして成長を加速していくために、グローバルな事業ステージで活躍し、成長していくことができる人材育成を強化しています。

当社におけるグローバル人材とは、「グローバル市場に果敢に挑戦する高い志のもと、当社の海外事業の発展・拡大に向けて、創造、開拓する強い意欲と精神力を持って取り組むとともに、自己の持つ能力を最大限に発揮し、成果につなげることができる人材」です。

このようなグローバル人材の継続的な育成に向けて、グローバル人材育成教育体系のもと、さまざまな教育プログラムを実施しています。具体的には、基礎的能力向上のプログラムとして「語学検定受験支援」、「語学スクーリング補助」を実施したほか、「海外視察研修」の一環として公募型のマレーシア・シンガポール研修を実施しました。さらに、選抜型教育の一環として「海外留学制度」、「短期集中グローバル人材育成コース」を実施しました。

また、2012年度からはウェブによる語学検定システムを導入し、全従業員を対象に語学レベルの向上を推進しています。

WEB 詳しい情報はフルレポートへ（P.59～65）

環境のために

名古屋工場における「企業の森づくり」活動

方針 常に未来に向けた技術で、"植物のチカラ®"を引き出し、原料・資材の調達から、生産、納品、ご使用、廃棄にいたるまで、地球環境に配慮した商品・サービスの開発・ご提供を目指します。またこれらを通じて、低炭素社会、資源循環型社会、自然共生社会の構築を目指した取り組みの推進に努めます。

省エネ機器の導入

横浜磯子事業場の本館棟では、夏は空調用冷水熱源機（電気）、冬は温水ボイラー（都市ガス）により空調をしていました。今回新たに、省エネ型のGHP（ガスヒートポンプ）空調設備を導入しました。

GHPはガスエンジンで室外機を動かすことで、電気エアコンと比べ大幅に電気消費量を少なくすることができ、節電に貢献します。トータルの効果としてCO_2排出量を年間6%削減、またコストダウンも期待できます。

横浜磯子事業場に導入したガスヒートポンプ

電力削減への取り組み

水島工場では、省エネ対策の一環として緑のカーテンを初めて作りました。ゴーヤを20苗購入し、事務所の南側と西側で約6ヵ月間栽培しました。

結果として大きな省エネ効果が見られ、緑化されている屋外壁面は非緑化の壁面と比較し、最大で9度温度が低く、また室内でも非緑化の壁面と比較し、最大で6度温度が低くなりました。

緑のカーテンは日々の手入れが肝心ですが、怠ることなく世話をすると、体感温度を下げるだけではなく見た目にも涼しい緑のカーテンが出来上がります。約230個のゴーヤも収穫され、従業員へ配布されました。次年度も継続して取り組み、省エネ活動を促進していきます。

水島工場　緑のカーテン

森林環境を保全する企業の森づくり

名古屋工場は、愛知県と協定を結んで2010年9月から「企業の森づくり」活動を行っています。この活動は年2回森林整備・保全活動を行うもので、当社は愛知県瀬戸市にある岩屋堂公園周辺の県有林を1ヘクタール担当しています。2012年度は、従業員と家族をあわせ、のべ47名が参加し、公園内にある遊歩道周辺の森林整備に重点を置いた活動を行いました。樹木を剪定したことで根元にまで多くの光が差し込み、木々の健全な成長に貢献することができました。

樹木除伐採

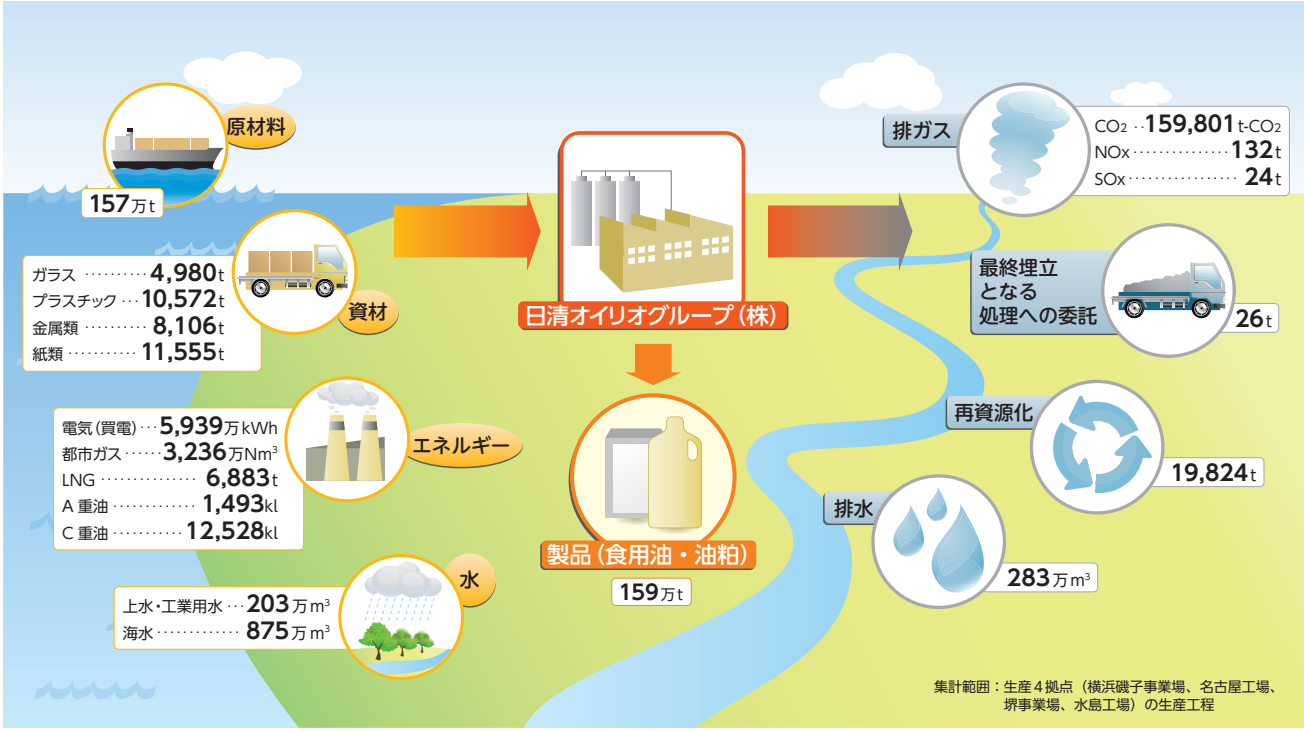
環境目標および評価

2012年度での達成を目標として取り組んできました環境活動の結果は以下の通りです。
新・中期環境目標では、2020年度での達成に向けてさらなる高い目標を掲げ、環境活動を推進していきます。

中期環境目標		2012年度の実績	評価	新・中期環境目標
低炭素社会	・生産エネルギー由来のCO_2総排出量を2012年度、1990年度比8%削減	・CO_2総排出量：21.1%削減（1990年度比）	○	2020年度に以下の目標を達成する（基準年度：1990年） ・生産活動における使用エネルギー量を20%削減、使用エネルギー原単位を15%削減 ・生産活動におけるCO_2排出量を25%削減、CO_2排出量原単位を20%削減
	・生産エネルギー由来のCO_2排出量原単位を2012年度、1990年度比16%削減	・CO_2排出量原単位：18.4%削減（1990年度比）	○	
	・油脂の輸配送に係るエネルギー使用の原単位を2012年度、2010年度比2%削減 対象：パッケージ品＋バルク油	・原単位：0.6%増加（2010年度比）	△	・油脂の輸配送に係るエネルギー使用の原単位を2020年度に、2010年度比10%削減 対象：パッケージ品＋バルク油 （油粕や生産のための拠点間輸送は除く）
循環型社会	・生産工程でのゼロエミッションを継続	・生産工程での再資源化率：99.87%	○	・生産工程でのゼロエミッションの継続 ・生産活動における用水（上水、工業用水）使用量原単位を2020年度に、2012年度比8%削減
オフィス関連	・電気使用量を2012年度、2010年度比で4%削減 対象：事務ブロック（本社＋8支店）	・電気使用量：10.8%削減（2010年度比）	○	・電気使用量原単位を2020年度に、2012年度比8%削減 対象：事務ブロック（本社＋8支店）
	・紙／コピー用紙の使用量削減 対象：事務ブロック＋研究ブロック	・コピー用紙使用量：2.2%削減（前年度比）	○	・紙／コピー用紙の使用量削減 対象：事務ブロック＋研究ブロック
	・紙ゴミの廃棄量削減 対象：事務ブロック（支店除く）＋研究ブロック	・紙ゴミ廃棄量：1.4%増加（前年度比）	△	・紙ゴミの廃棄量削減 対象：事務ブロック（支店除く）＋研究ブロック
開発関連	・2009年度比較、主要プラスチック容器の油1Kgあたり樹脂量を削減	・主要プラスチック容器の油1Kgあたり樹脂量：3.0%削減（2009年度比）	○	・環境負荷の少ない容器・包装の開発
	・化石資源の代替 ・未利用資源の有効利用 ・廃棄物の削減	・商品・技術開発テーマの推進	○	・化石資源の利用低減、未利用資源の有効利用など

評価：○順調に進捗、△未達成・改善が必要

資源・エネルギーの流れ（2012年度）



WEB 詳しい情報はフルレポートへ（P.83～111）

社会のために

堺市で実施したチャリティウォーク

方針 良き企業市民として地域社会に貢献するとともに、国際社会の一員としても良好な企業活動や積極的なコミュニケーションを図り、社会とともに発展していくよう努めます。

チャリティウォーク「WFP ウォーク・ザ・ワールド」への参加と協賛

当社は子どもの飢餓撲滅のために世界約70カ国で開催されるチャリティウォークイベント「WFP ウォーク・ザ・ワールド」に2007年より参加・協賛を続けています。日本では毎年横浜市のみなとみらいで開催されていますが、2012年度は当社独自企画として、堺事業場のボランティアによる運営で大阪府の堺市でも開催しました。2012年5月27日、みなとみらいで約100名、堺で約60名に及ぶ当社グループおよび関係会社の従業員とその家族が参加しました。揃いのオイリオTシャツを着用して、“世界の飢餓撲滅”のため、ウォーキングを行いました。

※ イベント参加費は諸経費を除いて国連WFP協会の「学校給食プログラム」に役立てられています。

子会社における地域貢献活動

1. 大連日清製油有限公司における取り組み

大連日清製油有限公司は、中国における企業価値の追求とその最大化を通じた人々・社会・経済の発展への貢献を目的とし、2010年より工場見学会を継続的に実施しています。

工場見学会

2012年度は、主に消費者を対象とした工場見学会を実施し、大連市内の地区自治会・大学生・子どもサークルなどの15団体、約560名に参加いただきました。

2. もぎ豆腐店（株）における取り組み

もぎ豆腐店（株）では、「豆腐」は栄養面でも離乳食に適した食材であるため、地域の小さな子どもを持つお母さんを対象に2012年度から離乳食教室を開催しています。

離乳食初期から完了期までの段階に応じた食材の大きさ、固さ、味付けなどを管理栄養士が解説するとともに、食事を通した子どもとのコミュニケーションのとり方や、離乳食・幼児食に関する不安や悩みの解消などにも努めています。

参加者からは「食事のレパートリーが増えて嬉しい」「皆が同じ悩みを持っていることがわかり安心した」「楽しく参加できた」などの感想が聞かれました。

2013年度は新たにフォローアップ相談会を設け、参加者の個別相談を受け付けていく予定です。

離乳食教室

WEB 詳しい情報はフルレポートへ（P.66～82）

国連グローバル・コンパクトの社内浸透

日清オイリオグループは、2011年7月、国連が提唱する「グローバル・コンパクト」に参加しました。参加2年目も、活動の基盤となる従業員に対して、国連グローバル・コンパクトの理念を浸透させる取り組みを引き続き行いました。

国連グローバル・コンパクトへの参加

日清オイリオグループは、2011年7月、国連が提唱する「グローバル・コンパクト」に参加しました。国連グローバル・コンパクトは、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野について組織が遵守すべき普遍的原則を示したものです。

国際的な企業グループとして、国連グローバル・コンパクトの理念を取り入れCSRの取り組みをさらに推進し、ステークホルダーからの信頼に応えていきます。

国連グローバル・コンパクト 10原則

人権	原則１：人権擁護の支持と尊重
	原則２：人権侵害への非加担
労働	原則３：組合結成と団体交渉権の実効化
	原則４：強制労働の排除
	原則５：児童労働の実効的な排除
	原則６：雇用と職業の差別撤廃
環境	原則７：環境問題の予防的アプローチ
	原則８：環境に対する責任のイニシアティブ
	原則９：環境にやさしい技術の開発と普及
腐敗防止	原則10：強要・賄賂等の腐敗防止の取組み

国連グローバル・コンパクトとは

国連グローバル・コンパクトは、参加各企業が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための指針で、1999年、当時の国連事務総長のコフィー・アナン氏が提唱したものです。

国連グローバル・コンパクト参加企業は、人権の保護や不当な労働の排除、環境への対応、腐敗の防止に関わるCSRの基本10原則に賛同する企業トップ自らのコミットメントのもとに、その実現に向けて努力を継続します。

THE GLOBAL COMPACT
WE SUPPORT

国連グローバル・コンパクト説明冊子の作成

国連グローバル・コンパクトの理念の社内浸透を目的に、国連グローバル・コンパクト10原則の内容解説冊子を作成し、当社および子会社の役員・従業員に配布しました。それぞれの原則について「目指すもの」「解説」「日清オイリオグループの業務とのかかわり」の項目を設け、従業員が国連グローバル・コンパクトの10原則を自分の業務と関連づけて理解し、実践できることを目指しています。

冊子表紙

CSRを支える基盤

社会との信頼関係および企業価値を維持・向上させるため、コーポレート・ガバナンスの充実、コンプライアンス、リスクマネジメントに積極的に取り組んでいます。

コーポレート・ガバナンス

企業が社会との信頼関係を維持・向上させるために、コーポレート・ガバナンスはますます重要なものになっています。当社グループは、コーポレート・ガバナンスの充実を経営の重要事項と考えています。

当社は、取締役会、監査役会、内部統制監査室の機能を充実することにより、経営および業務執行の健全性、アカウンタビリティは確保できると判断しています。経営管理体制としては、環境変化に即応した迅速な意思決定を実践するため、執行役員制度を導入しています。

また、経営理念の実現を通じてステークホルダーから信頼を得ることを企業の社会的責任（CSR）と捉え、その全社的な推進のために、CSR委員会を設置しています。コンプライアンス、リスクマネジメント体制については、取締役会の諮問機関であるリスクマネジメント委員会、企業倫理委員会などの委員会を設置し、必要に応じて顧問弁護士などとの連携を図り、専門的な見地から意見を答申しています。

コンプライアンス

当社グループは、コンプライアンスを単なる法令遵守とは考えず、ビジネス上の倫理、さらには社会倫理の遵守と捉えています。

コンプライアンスの拠り所となる「日清オイリオグループ行動規範」は、企業倫理綱領のみならず経営理念実現のための行動指針であり、CSR活動の行動指針とも位置づけています。

また、企業倫理ホットラインによる通報受付を行い、提供された通報については企業倫理委員会で審議し、再発防止を図っています。

コンプライアンス・プログラムの実施

事業年度ごとにテーマを設定して、教育を行っています。2012年度は、新入社員研修などでのコンプライアンス教育や下請法セミナーを行いました。また、法務知識を社内に発信する情報誌「オイリオ@ほうむ」では、製造物責任法（PL法）を取り上げました。

企業倫理月間企画

当社は、毎年10月を企業倫理月間と定めています。企業倫理およびコンプライアンス意識の向上のため、企業倫理講演会の開催をはじめとしたさまざまな企画を実施しています。

2012年度の企業倫理講演会では、「グローバル企業のCSR」をテーマに、埼玉大学大学院客員教授の藤井敏彦氏にご講演いただきました。藤井氏からは、日本とヨーロッパにおけるCSRの起源や展開を比較しながら、グローバル企業のCSRについての解説がありました。当社がグローバルに事業を展開するにあたって、社会においてますます重要な要素となってきているCSRに関してあらためて考察する機会となりました。

講師を務めた藤井敏彦氏

リスクマネジメント

当社グループのリスクマネジメントの目的は、主体的な取り組みにより企業として安定した収益をあげるだけでなく、企業の社会的責任を果たすとともに、さらなる企業価値の向上と持続的な発展を目指すことです。

あらゆるリスクに対して最適な対応策を講じるとともに、リスク発生時において被害を最小限にとどめるべく、迅速かつ最善の対応を図ることを、基本方針としています。

2012年度は、大規模地震に関わる事業継続計画（BCP）を再構築し、極大レベルの地震・津波の被害想定を追加するとともに、国内に4つの生産拠点を有する当社の強みを活かせる「代替」による事業継続（安定供給）の視点を強化しました。

第三者意見

『日清オイリオグループ CSR報告書2013 フルレポート』に対していただいた第三者意見を掲載しています。

評価できる点

1. トップコミットメントには、CSRで求められる持続可能な社会づくりとしての社会課題を人口問題、食料問題、環境問題との認識を示し、貴グループが取り組むCSR課題を明示していることが評価できます。またこれらの課題の解決に向けて、RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）、国連WFP協会、国連グローバル・コンパクトなどに積極的に参加するなど社会に開かれた企業文化を感じます。

2. 人材を尊重し、現場力とチーム力を活かした多様でユニークな活動が商品の品質やCSRの取り組みにつながっていることが評価できます。

3. 国連グローバル･コンパクトの理念の社内浸透を目的に国連グローバル･コンパクトの説明冊子を作られていることから、今後一層従業員の理解が進み、本業を通したCSRへの取り組みが進展していくことが窺えます。

今後、期待したい点

1. CSRの取り組みの基本方針において、「企業の持続的発展、企業価値の向上」を目指すとありますが、貴グループの取り組みがそれらとともに、社会の持続的発展や社会価値の向上につながることを明記すると、CSRの取り組みの発展が期待できると思われます。

2. 持続可能な社会づくりのための社会課題の解決にあたって、現在の貴グループの取り組みを見直すことでさらに発展していくことが期待できます。たとえばスポーツ振興事業は1978年からの非常に長い実績を持ち、これらを通して「食」の大切さや運動と食事のバランスの大切さの取り組みになっていることが評価できますが、今後はこれらをもっと一般の消費者にも広げることで貴グループならではの強みとノウハウを活かした社会課題解決の取り組みにつながっていくものと考えます。

3. CSR活動の課題・実績・評価の記載については、「環境目標および評価」のように目標や具体的な評価などを示すと、将来の目指す姿と現在の取り組みの実態が見えるようになると思われます。そのための方法として貴グループの現場力とチーム力を活用することも考えられます。

古谷 由紀子 氏
(公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会（NACS）常任顧問

1988年経済産業大臣認定消費生活アドバイザー取得、1998年日本リスクマネジャー&コンサルタント協会認定シニアリスクコンサルタント資格取得。2004年から2012年までNACS理事、2012年より現職。
CSR（企業の社会的責任）、CS経営、コンプライアンス経営を中心にしたコンサルティング、講演や論文執筆など多数。

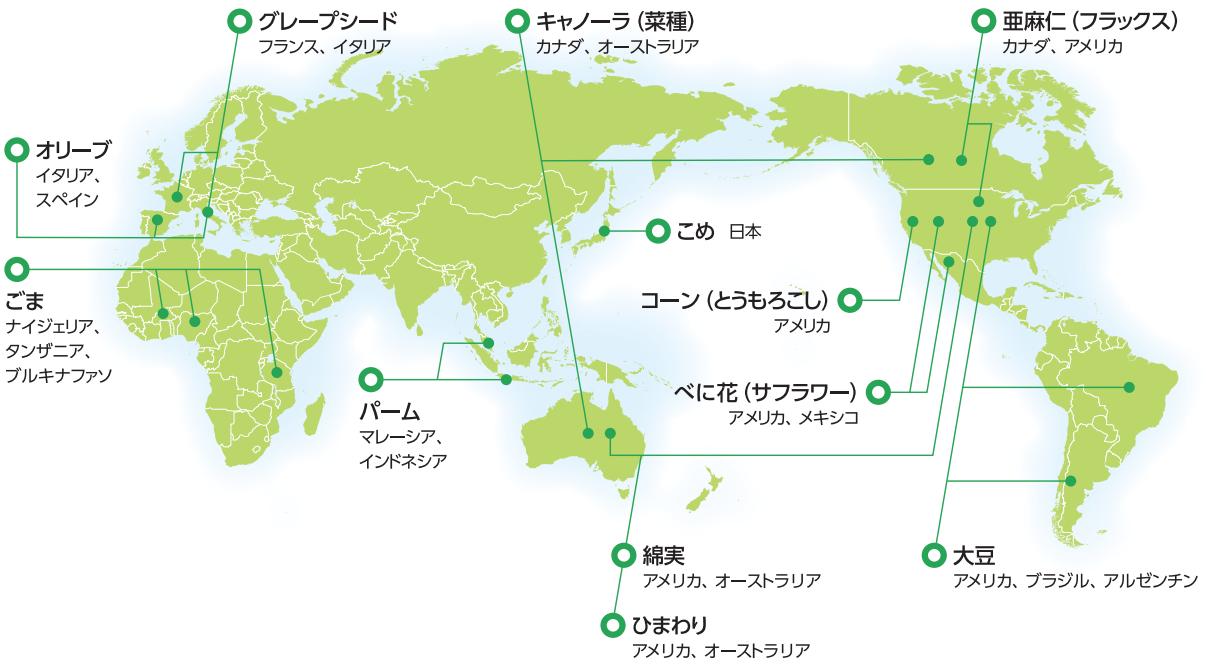
第三者意見を受けて

当社グループのCSR活動に対し、大変貴重なご意見をいただきありがとうございます。

トップコミットメントにおける当社グループ全体としてのCSR課題の明示やCSRの課題解決のために行ってきた活動、また特集記事やトピックスで紹介した個々の取り組みについて評価いただきましたことは、持続可能なCSR活動へのさらなる深化を考えるうえで非常に勇気づけられました。

ご指摘いただきました3つの「今後、期待したい点」につきましては、当社グループにおける大いなる課題と受け止めております。今まで以上にCSR活動の視点を社会全体に広げ、「社会の持続的発展、社会価値の向上」に貢献してまいります。そのために、具体的な目標や当社グループに適した評価制度の導入も視野に入れ、現在行っている個々のCSR活動をあらためて見直すとともに、ステークホルダーの皆様とより一層のコミュニケーションを図ってまいりたいと存じます。

日清オイリオグループ株式会社
コーポレートコミュニケーション部



植物油の主な原料と原産地

大豆

大豆油は、日本の食用油の中でも大変ポピュラーな油です。大豆粕は飼料や醸造用に、食品大豆は豆腐や味噌、醤油などに用いられます。

綿実

ワタを取った後の綿花の種子の核から油をとります。うまみが特長で食用油のほか、マーガリンやマヨネーズの原料にもなります。

グレープシード

ぶどうの種子からとれる淡黄・淡緑の油で、リノール酸を多く含みます。サラッとしていて、まろやかな風味を持ち、ドレッシングやマリネなど生食に適しています。

キャノーラ（菜種）

菜の花の種子からとったキャノーラ油は、ドレッシングから炒め物、揚げ物まで幅広く使われ、マーガリンやショートニングの原料にも用いられます。また菜種粕は飼料や肥料にも利用されます。

べに花（サフラワー）

べに花の種子から油をとります。オレイン酸が多い種類と、リノール酸が多い種類があり、揚げ物はもちろん、ドレッシングやマリネなどの生食用としてよく使われます。

こめ

米ぬかからとった油は、風味豊かなおいしさが特長です。揚げ物のほか、スナック菓子やおせんべいなどにも適しています。

亜麻仁（フラックス）

アマ科の一年草。亜麻仁油は食用のほか、インキ、塗料などの原料に、亜麻仁粕は飼料用に使われます。

コーン（とうもろこし）

とうもろこしの胚芽からとった油は香ばしい風味が特長です。揚げ物に適した食用油です。

ごま

焙煎して香ばしい風味を引き出してから油をしぼります。天然の酸化防止効果がある成分を含んでいます。

パーム

ヤシ科の常緑高木で、パームやしの果肉からとった油はフライなどの加工用油脂やマーガリン、ショートニング、チョコレート用油脂に用いられます。

ひまわり

ひまわりの種子からとった油はクセのない淡泊な風味が特長です。ドレッシングやマリネなどの生食用にも利用されています。

オリーブ

地中海沿岸を代表する樹木で、その果実からとった油です。特有の香りが特長で、食用のほか化粧品や薬用にもよく使われています。

NISSHIN Oillio

“植物のチカラ®”

日清オイリオグループ株式会社

〒104-8285　東京都中央区新川一丁目23番1号
お問い合わせ先：コーポレートコミュニケーション部
TEL. 03-3206-5109

ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C014473 www.fsc.org
VEGETABLE OIL INK
VOC FREE T&K

この報告書は、印刷工程で有害な廃液を出さない、水なし印刷方式で印刷しています。
またインキには、揮発性有機化合物を含まない、植物性の Non-VOC インキを使用しています。